

当社のSAFに関する取組みについて

2023年5月26日
富士石油株式会社

1. 当社経営方針

当社は2021年5月に策定した「第三次中期事業計画」において、低炭素・循環型社会への貢献は、企業としての社会的責務、かつ最重要の経営課題であるとの認識のもと、当社は2050年に向けた長期的な経営の方向性の中でカーボンニュートラルなエネルギーを供給する企業となることを明示し、「脱炭素社会に向けた取組強化」との基本方針に基づき、次世代バイオ燃料の導入に向けて取り組みを進めていくこととしております。

第三次中期事業計画（2021年5月策定）

基本方針	重点課題	具体的な取り組み
石油精製事業の更なる基盤強化	稼働信頼性の維持・強化	● 高経年設備の集中検査 ● ドローンによる点検やIoT、AI等のデジタル技術導入、他
	コスト競争力の強化、競争優位の確立	● 精製コストの削減、エネルギー効率の改善 ● 原料調達を含む生産最適化 ● 高付加価値製品増産に向けた設備改良 ● 総経費の合理化、業務効率化、他
脱炭素社会に向けた取組強化	製油所の徹底した環境負荷低減	● 省エネ活動・投資の一層深化 ● アンモニアのボイラー燃料使用検討、他
	脱炭素ビジネスの追求	● <u>次世代バイオ燃料の導入</u>やCO2フリー水素、合成燃料などの追求

2. SAF取組み状況①（令和4年度国土交通省ニート輸入実証事業参画）

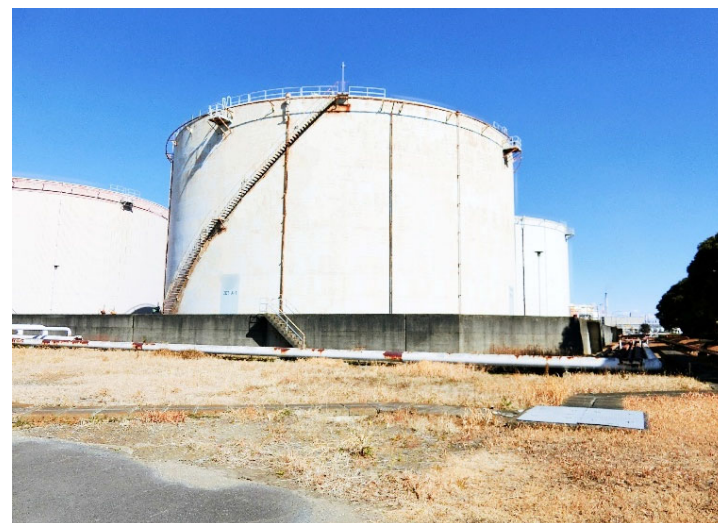
当社は、国土交通省航空局が進める『輸入ニートSAF モデル実証事業』にブレンド実施事業者として参画し、袖ヶ浦製油所の設備で輸入ニートSAF をジェット燃料と混合しSAFを製造しました。当社より出荷されたSAF は中部国際空港に搬入され、航空局が所有する飛行検査機へ供給されました。

本事業を通して当社は製油所の既存設備を活用したSAFのブレンド手順を実証するとともに、SAFブレンドに係るサプライチェーン上の課題の洗い出しに貢献することができました。

実証事業における当社実施内容



既設製品輸入栈橋よりニートSAF搬入



既設JETタンクにて石油JETと混合

既設JET出荷栈橋より空港へ出荷

3. SAF取組み状況②（SAF製造に向けた取組み）

当社は、かねてより、袖ヶ浦製油所におけるSAFを目的生産物とするバイオ燃料製造事業を検討しており、事業検討の一環として製造プラント基本設計を開始しております。

本事業の実現に向けて当社は伊藤忠商事株式会社との共同検討を実施しており、今後両社の知見を持ち寄り、投資判断に向けた検討を進めてまいります。

国産SAFの製造に向けた検討状況

下記を想定したバイオ燃料製造プラント建設に係る基本設計を実施中。

- ✓ 製造場所：袖ヶ浦製油所
- ✓ 製造数量（ニートSAF）：年間18万KL
- ✓ 製造開始時期：2027年度



富士石油(株) 袖ヶ浦製油所（千葉県）
原油処理能力：143,000BPSD

東京湾内に位置し、羽田空港・成田空港へスムーズな
SAF運搬が可能。